地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

（1） このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。

（2） このデジタルアーカイブの利用に際しては「東京大学経済学図書館電子資料利用規則」に同意したものとみなされます。

（3） 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。

（4） 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。

（5） 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

（6） 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

0000 0293

秘

昭和十五年七月

昭和十四年本邦鐵鋼業概況

日本製鐵株式會社

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

注意　時局下本文中の數字は一般に漏洩せざる樣篤と御留意相煩し度

本店企劃部調査課

昭和十四年本邦鐵鋼業概況

日本製鐵株式會社

目次

一、概說
二、生產及需給
三、鐵鋼價格
四、統制機構

一、概說

昭和十四年を迎へた我國の戰時經濟は、引續き東亞に於ける抗日政權覆滅、長期建設の兩面を盛つた聖戰の進行と滿蒙國境に於ける紛爭によつて益々その戰時色を濃くして行つたが、其の上に世界の他の一環たる歐洲情勢は一觸即發の形勢に在り、極東の情勢と一連のデリケートな繫りを保持しながら年初となつたのである。其の匆々に近衞內閣は遂に更迭を餘儀なくされ前內閣の政綱政策を踏襲せる平沼內閣の誕生となり重大時局の折柄斯くも目まぐるしく本邦政界は變轉したのである。次で第七十四議會は昨年度同樣一般會計豫算四十八億四百萬圓臨時軍事費四十六億五百萬圓の通過を見、その通り拔け勘定五億三千五百萬圓を控除するも之等豫算を併せて八十八億七千四百萬圓となつた。事變處理の爲めのこの尨大豫算の相當部分が我國重工業股賑のファクターである事は云ふを俟たない。其他必要資材獲得の爲の輸出振興及輸入制限、物價統制、消費統制の强化等全面的に戰時經濟は進行して來て居る。その中でも物價統制の强化は愈々本格化されねば

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0295

ならぬ懸案であつたので、四月末には中央物價委員會に於ては物價統制の大綱發表があり更に五月中頃商工省は時局に順應する爲め、その行政機構の劃期的變革を斷行し、戰時物資需給の所轄官廳として生産力擴充及物價統制强化の二大使命の遂行を期する事になつた。

次で又復八月末平沼内閣總辭職し阿部内閣之れに代つた。歐洲に於いては九月一日遂にヒツトラー總統はポーランドに對し戰鬪命令を發し之に對し英國は同三日對獨戰爭を宣言して、第二次歐洲大戰の火蓋は切つておとされたのである。

次で我政府は歐洲戰爭不介入の聲明と支那事變處理一本槍でゆく事を鮮明すると共に九月十八日附物價運賃賃銀等引上停止に關する總動員法施行令を發動したのである。

斯くの如き情勢下に在つて本邦鐵鋼業は一意生産の擴充に努力したる一方前年末確立した斯業統制機構は商工省内に設置されたる樞軸機關たる鐵鋼統制協議會の整備によつてその統制機能を發揮して來た。又鐵價に就いては中央物價委員會に於て決定せる低物價政策に則り本邦製鐵業者は率先して出來得る限りの建値引下を敢行し政府の此の大方針に協力して來たのである。

次に鐵鋼增産に要する原料及向後增産の新設備に要する資材の配給關係の手當はどうであつたかと云ふに此の方面に振り向け得らるゝ輸送機關は手一杯であるに加へ勞働人員の不足と之に伴ふ傭船料保險料の値上り及賃賃的には未熟練工の增加による勞銀の昂騰等の打擊を受け、更に積極的に增産其の他に要する鐵鋼原料增産設備に對する資材配給意の如くならざる實勢に於て、その割合には十四年に於ける鐵鋼生産高への影響は輕微であつたと云へよう。

即ち別表の如く工業生産指數の中鐵鋼關係指數が躍進を告げて居る通り、その生産量は增加して居るのである。他面銑鐵、鋼塊、鋼材の增産計畫建設の進捗については建設用の各種資材の入手難一層加はり日本製鐵の現狀より之を觀れば銑鋼一貫作業の建設計畫は熔鑛爐コークス爐副産物工場等は略々豫定通り進んで來て居るが製鋼壓延設備については稍ゝ遲延は免れない實情である。從つて之を日鐵以外の各社計畫に於ても略ゝ同樣の傾向は免れないであらう。

今本年の鐵鋼生産指數及勞銀指數生産及需給、市價統制機構等についての概略を示せば次の通りである。

(一)鐵鋼生産指數の躍進

日支事變を中心としての戰時狀態に伴ふ緊急不可缺なる生産力擴充の現はれは全工業生産量の增進を齎してはゐるが、その中でも銑鐵、機械類の如きはその增率の著しいものがある。今之を商工省調べによる工業生産指數によつて昭和十四年に於ける增加率を見れば次の通りである。

我國の工業生産總平均指數（昭和六・七・八・三ヶ年平均を一〇〇としたるもの）は昭和十三年に於ては一七二、〇であつたが同十四年の同指數は之れより八・五を增して一八〇・五となつて居る。その中十四年の製造工業指數の增率は前年より一〇・六を增して一八二・九になつた。尙製造工業の内に於ける銑鐵、壓延鋼材機械器具の生産指數を見るに普通壓延鋼材のみは微減してゐる。その原因は鍛造用鋼材、鑄鋼等の增加、とりわけ特殊鋼の激增によつて普通壓延鋼材の微減となつたものである。銑鐵に於いては十三年は二二八・四であつたものが五三を增加して二八一・五と躍進して居り機械器具の如きは前年三二六・五であつたものが六六を增して三九三・五と非常な躍增である。尤も機械器具の指數は生産高ではなく使用電力量であるので餘り明確なるものではないと思はれる。

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

尙鑛業指數は總平均指數に含まれて居るのであるが十三年一五九・四であつたものが十四年に於ては相ゝ昇進して一六四・六となつたが之は製造工業の割合に比し指數の飛躍を見てゐない。

工業生産指數（昭和6.7.8年平均ヲ100トス）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	上期平均	7月	8月	9月	10月	11月	12月	下期平均	年平均	前年ニ對スル增減
總平均	13年	161.2	164.9	180.2	176.0	176.1	168.7	171.2	166.4	166.5	167.3	173.4	178.0	184.6	172.7	172.0	
	14年	170.5	172.5	189.3	184.8	186.7	179.8	180.6	181.8	182.9	171.1	178.0	180.6	188.6	180.5	180.5	+ 8.5
製造工業平均	13年	162.8	167.0	181.7	178.3	177.9	170.2	173.0	167.9	169.0	169.1	175.2	179.8	185.6	174.4	172.3	
	14年	171.7	175.1	191.3	187.5	189.2	182.0	182.8	184.8	187.7	173.2	179.6	181.9	189.5	183.0	182.9	+ 10.6
銑鐵	13年	212	192	224	206	228	224	214.3	236	236	229	243	243	268	242.5	228.4	
	14年	268	252	281	263	291	286	273.5	284	278	271	296	296	312	289.5	281.5	+ 53.1
壓延鋼材	13年	219	238	252	247	245	243	240.7	202	197	231	217	229	229	217.5	229.1	
	14年	226	229	271	236	249	232	240.5	208	201	203	209	221	228	211.7	226.1	— 3
機械器具	13年	278	322	338	331	326	321	319.3	299	314	318	336	356	379	333.7	326.5	
	14年	350	391	398	400	366	372	379.5	356	372	352	399	357	366	367.0	393.3	+ 66.8
鑛業平均	13年	149.6	149.8	169.9	158.9	162.9	158.0	158.2	156.3	148.3	154.7	160.9	165.2	177.4	160.5	159.4	
	14年	162.1	154.1	175.2	165.2	168.6	164.7	165.0	160.2	148.0	155.6	167.0	171.2	182.5	164.1	164.6	微增

備考 1. 本表ハ商工省重要工業生産月報中ノ工業生産量指數ニヨル
2. 總平均指數ハ製造工業及鑛業ヲ含ミ又銑鐵壓延鋼材機械器具指數ハ製造工業指數ニ包含サル

(二) 鐵鋼關係

十四年中に於ける鐵鋼關係勞務者の賃銀指數を商工省統計課調べによつて見れば左表の通りである。即ち昭和九年四月より同十年三月の一ケ年平均賃銀を一〇〇とする指數によれば金屬工業については平均約二二の增率であるがその內鑛金工は二二八・六で最高を示し平爐工は一一六で最低指數である次に機械器具工業については平均一八・三の增率で其の內鍛冶工の一三二が最高で研磨工の一〇九が最低となつてゐる。

鐵鋼關係勞務者賃銀指數の推移概況（商工省統計課調）（昭和九年四月乃至同十年三月ノ平均賃銀ヲ一〇〇トス）

業種別	昭和十四年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
金屬工業（平均）		一二六・四	一二〇・九	一二一・四	一二一・九	一二一・一	一二一・五	一二一・九	一二四・八	一二二・一	一二六・九	一二五・四	一二〇・〇	一二二・〇
上工工場	鑛鋼	一二三・九	一二六・〇	一二四・三	一二六・九	一二六・〇	一二四・九	一二九・七	一〇九・〇	一二〇・〇	一二五・九	一二五・〇	一二〇・〇	一二六・〇
	平爐	一二六・四	一二九・五	一二〇・六	一二一・一	一二〇・人	一二一・一	一二五・五	一〇〇・五	一二二・一	一二六・〇	一二一・一	一二五・一	一二六・一
	壓延工場	一二六・六	一二四・四	一二一・四	一二八・人	一二四・〇	一二九・人	一二〇・六	一二九・人	一二三・一	一二六・人	一二三・五	一二八・人	一二九・人
仕上工場	機械器具工業（平均）	一一八・九	一一三・四	一一六・六	一一九・六	一一三・〇	一一五・三	一一八・人	一一八・六	一一八・六	一一六・三	一一四・〇	一一四・四	一一六・三
	鑛鋼	一一四・九	一一五・九	一一三・四	一一九・五	一一三・〇	一一四・五	一一四・五	一一五・一	一一三・一	一一三・一	一一四・〇	一一四・六	一一四・六
	壓延工場	一一一・九	一一三・四	一一六・六	一一九・六	一一一・一	一一一・一	一一八・人	一一八・六	一一八・六	一一三・一	一一四・〇	一一四・九	一一五・三
	鍛冶工場	一一三・五	一一八・人	一一四・四	一一九・三	一一三・一	一一三・一	一一〇・人	一一四・人	一一四・七	一一四・人	一一三・一	一一三・一	一一三・一
	木型工場	一一四・六	一一四・三	一一四・五	一一四・一	一一四・一	一一一・六	一一一・人	一一一・七	一一四・人	一一四・四	一一一・人	一一四・五	一一四・一
	旋盤工場	一一四・六	一一四・五	一一四・五	一一四・一	一一四・一	一一四・五	一一三・五	一一四・三	一一四・三	一一四・一	一一五・四	一一四・一	一一四・一
	倒盤工場	一一〇・六	一一〇・四	一一〇・人	一一一・〇	一一〇・一	一一一・〇	一一〇・六	一一〇・六	一一三・一	一一四・五	一一〇・五	一一一・人	一一四・四
	研磨工場	一〇〇・五	一〇四・五	一〇六・人	一〇六・五	一〇九・五	一一〇・五	一一一・五	一〇六・人	一一〇・五	一一〇・〇	一一一・〇	一一九・五	一〇九・〇
	鉋盤工場	一一四・三	一一六・六	一一九・〇	一一六・一	一一一・四	一一六・人	一一九・五	一一九・五	一一三・人	一一三・〇	一一九・五	一一九・五	一一六・三
	ベルト工場	一一三・〇	一一〇・六	一一九・四	一一六・四	一一〇・六	一一四・〇	一一四・五	一一四・一	一一四・一	一一四・四	一一四・〇	一一四・〇	一一五・九
	立工場	一一四・人	一一三・人	一一四・三	一一六・五	一一四・五	一一六・人	一一六・五	一一四・七	一一九・人	一一四・人	一一四・一	一一〇・一	一一四・一
	工工場	一一一・五	一一〇・六	一一五・三	一一六・五	一一四・六	一一六・人	一一六・五	一一六・五	一一九・人	一一九・九	一一九・一	一一九・一	一一〇・人

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

二、生産及需給

昭和十四年に於ける本邦鐵鋼材の生産並輸出入高について之を觀れば、その生産高は前年に比べ銑鐵、鋼塊、鋼材共增産して居る。銑鐵生産は五十八萬七千瓲を增して三百四十四萬五千瓲となつたが輸入高は約十四萬四千瓲を減じて七十一萬九千瓲となつた爲めその供給高は四百十六萬四千瓲となり約四十四萬三千瓲の供給增となつた。尙滿洲の十四年に於ける銑鐵生産は前年より十六萬八千瓲を增して九十九萬五千二百瓲と百萬瓲に近似して來た。

次に本邦に於ける鋼塊生産は約十四萬九千瓲を增して六百七十二萬七千餘瓲となり滿洲に於ける生産は五萬九千瓲を減少して約五十六萬二千瓲となつた。又本邦の販賣向半製品の生産は約二萬四千瓲を減じて二十萬八千八百瓲となり滿洲の同生産は六萬四千瓲を減じて十五萬一千五百瓲となつた。又同半製品の輸出入については輸出は前年より一千七百瓲を微增して六千瓲となつたが輸入は二萬四千四百瓲を減じて二十萬八千八百瓲となつた。

次に本邦の鋼材生産は之れを前年に比べ三萬二千瓲を微增して五百六十一萬三千瓲となり。同輸入は十萬五千瓲を減少、十一萬四千瓲となつたので同供給高は五百七十二萬七千瓲となつて前年より七萬三千瓲の縮少となつた。

尙輸出は鋼材九萬二千瓲半製品二千瓲計九萬四千瓲を增して五十一萬一千瓲となつたので同輸出額を供給高より控除すれば國內需要は結局五百二十一萬二千瓲となつた譯である。

又滿洲の鋼材生産は前年より三萬三千六百瓲を增して三十五萬二千七百瓲となつた。

今日本製鐵と社外別に十四年に於ける鐵鋼生産高を示せば次の通りである。

第一表、昭和十四年本邦鐵鋼生産高(瓲)

	銑鐵			鋼塊(鐵鋼共)			鋼材		
	數量		%	數量		%	數量		%
日本製鐵	二、七〇三、一一五		七八	三、〇五八、三五三		四五	一、二七二、一一三		四〇
社外製鐵會社計	七四二、一一九		二二	三、六六八、二六六		五五	三、三四一、一一九		六〇
計	三、四四五、三三〇		一〇〇	六、七二六、六一九		一〇〇	五、六一三、三三八		一〇〇

(イ) 鋼材

昭和十四年に於ける本邦鋼材の生産及需給の大要は前段概說した通りであるが更に之を日鐵及社外(各社計)の立場より品種別と地域別に前年と比較してその消長を見れば左表の通りである。

第二表、昭和十四年本邦鋼材內地朝鮮滿洲別生産輸出入及需要高(瓲)

(側合ハ需要高ヲ一〇〇トス)

			昭和十四年			昭和十三年			比較增減(△ハ減)
			數量		側合	數量		側合	
生産高	日鐵	內地	二、一五八、二二四		四二	二、一二五、四〇六		三五	五五、七〇八
		朝鮮	六六、九九		二	九二、四四四		二	△一四、四四五
		小計	二、二四二、二二三		四四	二、二一八、八五〇		四一	四〇、三七三
	社外	內地	三、二四一、一九五		六三	三、三五八、二九		六三	△一七、九一四
		計	五、六一三、三三八		一〇四	五、五七〇、九九		一〇四	三、二九五
日本製鐵ヨリ販賣セシ鋼材及パイプ類ヲ工場へ再ビ鋼材ニ延用ト			三六四、四四四			三三一、六三九			三二、〇一〇

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

鋼材品種別生産及輸出入高表

注 ※印括弧内仕上鋼板數量ハ厚中板及薄板中ニ含マルル爲括弧内ニ示セリ
意 ◎印括弧内數量ハ社外ノ半製品ニシテ合計中ニ加算セズ

	昭和十四年 數量	昭和十四年 割合	昭和十三年 數量	昭和十三年 割合	比較增減(△ハ減)
輸入高 内地	一〇五、三一一	三	三四、三三八	四	△一〇五、三一一
輸入高 朝鮮	三、八三三		四、三五		△三、八三三
輸入高 臺灣	一五		一〇、〇六一		△一〇、〇四六
輸入高 計	二三、三六九		二九、二四六		△一〇五、八七七
供給高	五、三六、八七四	三	三九、二四六、〇〇五	四	△三四、三三八、八七一
輸出高 内地	四六、六、三二	一〇	五三、三三、九四四	八	△八、四四、四四四
輸出高 朝鮮	一八、七九八		一三、九五五		四、八六三
輸出高 臺灣	三〇		一九		一一
輸出高 計	四六、〇四九	一〇	四三、三三八	八	二、七一一
輸出超過高	三九、一四八、〇四九		一九、一四、一四八		一九、一四、一四八
需要高	五、三三、一八四、八	一〇〇	五、三九、七七、六七四	一〇〇	△六七、一〇二
内地 移入高	八六、七五四	二	一五三、一八六	三	三六、六七八
内地 移出高	四六、九六、九八	九	四三、九二、三二〇	八	四〇、九二九
朝鮮 移入高	三九四、四六九	八	三、四三、一五四〇	六	三、九八、九七四
朝鮮 移出高	八五、一五八、九	一	一三四、一五六	二	△一三四、一五六
臺灣 移入高	一、一四九、九	一	八五、一四〇	一	△一四、一五一
臺灣 移出高	三六、三六〇		二六、一三五	一	△二六、一三五
滿洲生産高			三三、一六九		△三三、一六九

	昭和十三年 生産高 日鐵	社外	計	輸入高	供給高	輸出高	需要高
	(111)	(108)	(109)	(16)	(97)	(121)	(96)
	2,272,133	3,341,195	5,613,328	113,569	5,726,897	505,049	5,221,848
	(129)	(90)	(106)	(9)	(99)	(199)	(93)
	642,297	635,379	1,277,676	8,799	1,286,495	135,825	1,150,650
	(72)	(98)	(81)	(1)	(78)	(150)	(77)
	349,804	282,186	631,990	439	632,429	15,980	616,449
	(158)		(166)	(23)	(105)	(605)	(83)
	345,891	17,088	362,979	37,774	400,753	93,602	307,151
	(102)	(71)	(78)	(8)	(69)	(46)	(74)
	108,308	241,060	349,368	5,630	354,998	45,886	309,112
	(110)	(88)	(99)	(14)	(89)	(151)	(85)
	1,446,300	1,178,713	2,622,013	52,642	2,674,655	291,293	2,383,362
	(119)	(113)	(116)	(5)	(102)	(17)	(102)
	595,551	687,174	1,282,725	7,884	1,290,609	620	1,289,989
	(89)	(56)	(58)		(57)	(95)	(38)
	18,985	236,459	255,444	10	255,454	143,166	112,288
	(94)	(134)	(108)		(74)	(96)	(73)
	102,875	76,726	179,601	387	179,988	10,637	169,351
	(105)	(165)	(122)		(108)		(108)
	34,139	22,081	56,220	—	56,220	—	56,220
	(124)		(288)				(288)
	※(210,23)	※(27,988)	※(49,011)	—	—	—	※(49,011)
	(111)	(93)	(100)	(3)	(88	(93)	(88)
	751,550	1,022,440	1,773,990	8,281	1,782,271	154,423	1,627,848
		(121)	(121)	(92)	(104)	(85)	(107)
	—	270,255	270,255	4,711	274,966	36,751	238,215
	(118)	(100)	(103)	(5)	(66)	(125)	(64)
	15,701	60,039	75,740	1,997	77,737	6,173	71,564
	(109)	(124)	(122)	(6)	(118)	(155)	(112)
	12,149	70,591	82,740	140	82,880	16,409	66,471
	(111)	(94)	(101)	96	(89)	(121)	(86)
	2,225,700	2,599,038	4,824,738	67,771	4,892,509	505,049	4,387,460
	(161)	(158)	(156)		(158)		(158)
	26,162	127,025	153,187	—	153,187	—	153,187
	(130)	(162)	(159		(43)		(159)
	16,043	230,254	246,297	—	246,297	—	246,297
	(111)	(99)	(104)	(96)	(92)	(121)	(90)
	2,267,905	2,956,317	5,224,222	67,771	5,291,993	505,049	4,786,944
	(180)	(360)	(356)	(210)	(332)		(332)
	4.228	384,878	389,106	45,798	434,904	—	434,904
	(80)	(92)	(80)	(50)	(63)	(28)	(64)
	264,449	◎(137,058)	264,449	208,788	473,235	6,036	467,199

	昭和13年 生産高 社外	計	輸入高	供給高	輸出高	需要高
	(107)	(108)	(30)	(98)	(99)	(98)
	3,317,460	5,539,939	219,411	5,759,350	412,710	5,346,640
	(90)	(102)	(23)	(96)	(164)	(91)
	668,664	1,222,349	22,696	1,245,045	121,960	1,123,085
	(96)	(90)	(15)	(87)	(125)	(87)
	275,596	702,510	5,425	707,935	13,386	694,549
		(129)	(49)	(95)	(206)	(90)
	2,234	282,619	80,934	363,553	31,896	331,657
	(85)	(87)	(30)	(79)	(51)	(86)
	290,780	389,624	20,947	410,571	50,291	360,280
	(93)	(98)	(35)	(90)	(112)	(89)
	1,237,274	2,597,102	130,002	2,727,104	217,533	2,509,571
	(114)	(118)	(16)	(105)	(66)	(105)
	690,210	1,306,423	24,635	1,331,058	2,373	1,328,685
	(82)	(82)	(9)	(80)	(77)	(82)
	346,655	360,838	669	361,507	116,995	244,512
	(115)	(106)	(28)	(81)	(93)	(80)
	65,946	176,077	21,668	197,745	10,279	187,466
	(157)	(129)	(3)	(115)		(115)
	21,000	59,303	198	59,501	—	59,501
		(89)		(89)		(89)
	1,752	15,191	—	15,191	—	15,191
	(103)	108)	(19)	(97)	(78)	(99)
	1,125,563	1,917,832	47,170	1,965,002	129,647	1,835,355
	(101)	(101)	(23)	(89)	(108)	(86)
	227,420	227,420	9,287	236,707	46,592	190,115
	(105)	(107)	(18)	(74)	(96)	(73)
	63,223	78,371	7,984	86,355	4,727	81,628
	(124)	(122)	(12)	(119)	(134)	(116)
	70,661	83,081	257	83,338	14,211	69,127
	(98)	(102)	(28)	(93)	(99)	(92)
	2,724,141	4,903,806	194,700	5,098,506	412,710	4,685,796
	(133)	(136)		(136)		(136)
	106,685	131,409	—	131,409	—	131,409
	(143)	(142)		(142)		(142)
	203,768	219,988	—	219,988	—	219,988
	(101)	(104)	(28)	(95)	(99)	(95)
	3,034,594	5,255,203	194,700	5,449,903	412,710	5,037,193
	(265)	(261)	(113)	(236)		(236)
	282,866	284,736	24,711	309,447	—	309,447
	(99)	(98)	(73)	(84)	(20)	(86)
	◎(147,249)	323,153	303,185	626,338	4,333	622,005

0000 0298

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0299

三表　最近三ケ年ノ本邦鋼材品種別生産及輸出入高表

括弧内ハ昭和十二年ヲ100トシタル指數

注　※印括弧内仕上鋼板數量ハ厚中板及薄板中ニ含マルル爲括弧内ニ示セリ
意　◎印括弧内數量ハ社外ノ半製品ニシテ合計中ニ加算セズ

	昭和12年 生産高 日鐵	昭和12年 生産高 社外	昭和12年 生産高 計	昭和12年 輸入高	昭和12年 供給高	昭和12年 輸出高	昭和12年 需要高	昭和13年 生産高 日鐵	昭和13年 生産高 社外	昭和13年 生産高 計	昭和13年 輸入高	昭和13年 供給高	昭和13年 輸出高	昭和13年 需要高	昭和14年 生産高 日鐵	昭和14年 生産高 社外	昭和14年 生産高 計	昭和14年 輸入高	昭和14年 供給高	昭和14年 輸出高	昭和14年 需要高
鋼材總計 (A+B)	(100) 2,044,339	(100) 3,102,080	(100) 5,146,419	(100) 727,960	(100) 5,874,379	(100) 418,292	(100) 5,456,087	(109) 2,222,479	(107) 3,317,460	(108) 5,539,939	(30) 219,411	(98) 5,759,350	(99) 412,710	(98) 5,346,640	(111) 2,272,133	(108) 3,341,195	(109) 5,613,328	(16) 113,569	(97) 5,726,897	(121) 505,049	(96) 5,221,848
(A) 普通鋼々材 壓延鋼 條鋼 棒鋼	496,098	704,652	1,200,750	98,281	1,299,031	68,333	1,230,698	(112) 553,685	(90) 668,664	(102) 1,222,349	(23) 22,696	(96) 1,245,045	(164) 121,960	(91) 1,123,085	(129) 642,297	(90) 635,379	(106) 1,277,676	(9) 8,799	(99) 1,286,495	(199) 135,825	(93) 1,150,650
條鋼 形鋼	488,377	287,665	776,042	36,976	813,018	10,678	802,340	(87) 426,914	(96) 275,596	(90) 702,510	(15) 5,425	(87) 707,935	(125) 13,386	(87) 694,549	(72) 349,804	(98) 282,186	(81) 631,990	(1) 439	(78) 632,429	(150) 15,980	(77) 616,449
條鋼 レール類	218,633	—	218,633	164,698	383,331	15,465	367,866	(128) 280,385	2,234	(129) 282,619	(49) 80,934	(95) 363,553	(206) 31,896	(90) 331,657	(158) 345,891	17,088	(166) 362,979	(23) 37,774	(105) 400,753	(605) 93,602	(83) 307,151
條鋼 線材	105,787	341,463	447,250	70,135	517,385	99,008	418,377	(93) 98,844	(85) 290,780	(87) 389,624	(30) 20,947	(79) 410,571	(51) 50,291	(86) 360,280	(102) 108,308	(71) 241,060	(78) 349,368	(8) 5,630	(69) 354,998	(46) 45,886	(74) 309,112
條鋼 小計	1,308,895	1,333,780	2,642,675	370,090	3,012,765	193,484	2,819,281	(104) 1,359,828	(93) 1,237,274	(98) 2,597,102	(35) 130,002	(90) 2,727,104	(112) 217,533	(89) 2,509,571	(110) 1,446,300	(88) 1,178,713	(99) 2,622,013	(14) 52,642	(89) 2,674,655	(151) 291,293	(85) 2,383,362
延鋼板 厚中板	500,092	605,666	1,105,758	158,060	1,263,818	3,614	1,260,204	(123) 616,213	(114) 690,210	(118) 1,306,423	(16) 24,635	(105) 1,331,058	(66) 2,373	(105) 1,328,685	(119) 595,551	(113) 687,174	(116) 1,282,725	(5) 7,884	(102) 1,290,609	(17) 620	(102) 1,289,989
延鋼板 薄板（亞鉛鍍鋼板ヲ含ム）	21,341	421,073	442,414	7,069	449,483	151,318	298,165	(66) 14,183	(82) 346,655	(82) 360,838	(9) 669	(80) 361,507	(77) 116,995	(82) 244,512	(89) 18,985	(56) 236,459	(58) 255,444	10	(57) 255,454	(95) 143,166	(38) 112,288
延鋼板 ブリキ	109,046	57,314	166,360	77,773	244,133	11,067	233,066	(101) 110,131	(115) 65,946	(106) 176,077	(28) 21,668	(81) 197,745	(93) 10,279	(80) 187,466	(94) 102,875	(134) 76,726	(108) 179,601	387	(74) 179,988	(96) 10,637	(73) 169,351
延鋼板 硅素鋼板	32,611	13,397	46,008	5,909	51,917	—	51,917	(117) 38,303	(157) 21,000	(129) 59,303	(3) 198	(115) 59,501	—	(115) 59,501	(105) 34,139	(165) 22,081	(122) 56,220	—	(108) 56,220	—	(108) 56,220
延鋼板 仕上鋼板	16,989	—	16,989	—	16,989	—	16,989	(79) 13,439		(89) 15,191	—	(89) 15,191	—	(89) 15,191	(124) ※(210,235)	※(27,988)	(288) ※(49,011)	—	—	—	(288) ※(49,011)
延鋼板 小計	680,079	1,097,450	1,777,529	248,811	2,026,340	165,999	1,860,341	(116) 792,269	(103) 1,125,563	108) 1,917,832	(19) 47,170	(97) 1,965,002	(78) 129,647	(99) 1,835,355	(111) 751,550	(93) 1,022,440	(100) 1,773,990	(3) 8,281	(88 1,782,271	(93) 154,423	(88) 1,627,848
鋼管	—	224,256	224,256	40,727	264,983	43,245	221,738	—	(101) 227,420	(101) 227,420	(23) 9,287	(89) 236,707	(108) 46,592	(86) 190,115	—	(121) 270,255	(121) 270,255	(92) 4,711	(104) 274,966	(85) 36,751	(107) 238,215
帶鋼	13,332	60,227	73,559	43,641	117,200	4,947	112,253	(114) 15,148	(105) 63,223	(107) 78,371	(18) 7,984	(74) 86,355	(96) 4,727	(73) 81,628	(118) 15,701	(100) 60,039	(103) 75,740	(5) 1,997	(66) 77,737	(125) 6,173	(64) 71,564
其他	11,106	56,885	67,991	2,219	70,210	10,617	59,593	(112) 12,420	(124) 70,661	(122) 83,081	(12) 257	(119) 83,338	(134) 14,211	(116) 69,127	(109) 12,149	(124) 70,591	(122) 82,740	(6) 140	(118) 82,880	(155) 16,409	(112) 66,471
計	(100) 2,013,412	(100) 2,772,598	(100) 4,786,010	(100) 705,488	(100) 5,491,498	(100) 418,292	(100) 5,073,206	(108) 2,179,665	(98) 2,724,141	(102) 4,903,806	(28) 194,700	(93) 5,098,506	(99) 412,710	(92) 4,685,796	(111) 2,225,700	(94) 2,599,038	(101) 4,824,738	96 67,771	(89) 4,892,509	(121) 505,049	(86) 4,387,460
鍛鋼品	16,203	80,321	96,524	657	97,181	—	97,181	(153) 24,724	(133) 106,685	(136) 131,409	—	(136) 131,409	—	(136) 131,409	(161) 26,162	(158) 127,025	(156) 153,187	—	(158) 153.187	—	(158) 153,187
鑄鋼品	12,377	142,305	154,682	—	154,682	—	154,682	(131) 16,220	(143) 203,768	(142) 219,988	—	(142) 219,988	—	(142) 219,988	(130) 16,043	(162) 230,254	(159 246,297	—	(43) 246,297	—	(159) 246,297
合計	(100) 2,041,992	(100) 2,935,224	(100) 5,037,216	(100) 706,145	(100) 5,743,361	(100) 418,292	(100) 5,325,069	(87) 2,220,609	(101) 3,034,594	(104) 5,255,203	(28) 194,700	(95) 5,449,903	(99) 412,710	(95) 5,037,193	(111) 2,267,905	(99) 2,956,317	(104) 5,224,222	(96) 67,771	(92) 5,291,993	(121) 505,049	(90) 4,786,944
(B) 特殊鋼々材	2,347	106,856	109,203	21,815	131,018	—	131,018	(80) 1,870	(265) 282,866	(261) 284,736	(113) 24,711	(236) 309,447	—	(236) 309,447	(180) 4.228	(360) 384,878	(356) 389,106	(210) 45,798	(332) 434,904	—	(332) 434,904
半製品（鋼片、シートバー）	330,894	◎(149,388)	330,894	416,701	747,595	21,632	725,963	(98) 323,153	◎(147,249)	(98) 323,153	(73) 303,185	(84) 626,338	(20) 4,333	(86) 622,005	(80) 264,449	◎(137,058)	(80) 264,449	(50) 208,788	(63) 473,235	(28) 6,036	(64) 467,199

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0300

鋼材品種別需給高（第二表參照）

昭和十四年の鋼材品種別需給高は昭和十三年に比すれば次表の通りである。本表の括弧内の數字は昭和十二年を一〇〇としてその消長を見たものである。

十四年に於ける需給に於て十二年に比べ著しく變化したるは鋼材輸入の八割五分減と輸出の二割増であるがその他は大局的に見て非常なる變化はない。

先づ全鋼材生産の殆ど半分を占むる棒鋼形鋼レール線材を含む條鋼類の生産は依然日鐵が優位で十四年は一割増加して百四十四萬六千瓲となつたに反し社外各社計は約一割餘の百十七萬六千瓲となつた。尚輸入高は八割五分の激減を見せ五萬二千六百瓲となつたが輸出高は約五割を増加して二十九萬一千三百瓲となつたので結局國内需要は一割五分減の二百三十八萬三十四百瓲となつた。

その主なる原因を品種別に見れば棒鋼に於ては日鐵が約三割程増産せるも社外生産は一割を微減し結局棒鋼全體として約六分の増産となつてゐる。又同棒鋼の輸入は九割を激減せるに反しその輸出は約二倍に激増せる爲め結局棒鋼の需要は十二年より約六分減となつた。

形鋼に於ては日鐵生産は二割八分を減じ社外生産も微減したので合計に於ては二割の減退となつた。又その輸入は約九割七八分を激減したに反し、輸出は五割を増加したので結局需要は二割三分の減少となつた。

レールに於ては日鐵は約六割を増加したが社外は十三年に約二千二百瓲を初めて生産し十四年には一萬七千瓲を生産して居るので前年より結局約八倍を増産した事になつた。輸入は約七割七分を激減したが線材に於ては日鐵は微増で變化しないが社外は三割餘りの激減の爲め計に於ては二割餘の減少となつた。又輸入は

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0301

九割餘り輸出は五割四分夫々減退した爲め需要は二割六分の縮少となつた。

次に全鋼材の約三割五分を占むる厚中板薄板ブリキ硅素鋼板を含む鋼板類の生産は十二年より微減せるも殆んど同額である。その生産分野は社外は七分減であるも數量的にはやはり優勢で百二萬二千四百瓲である に反し日鐵は約一割餘を增加してはゐるがその産額は七十五萬一千五百瓲で結局計百七十七萬四千瓲と十二年より微減せるに過ぎない。又輸入は九割七分の激減を辿り八千三百瓲となり、輸出も七分を減退したので結局需要は一割二分程縮減され百六十二萬七千八百瓲となつた。

その主なる變化を種類別に見れば厚中板に於ては日鐵二割弱を社外一割三分を夫々增加し結局合計に於て一割六分增加の百二十八萬二千七百瓲となつたが輸入約九割五分輸出は八割三分夫々激減、この需要は微增となつた。薄板（亞鉛鍍板を含む）は日鐵一割餘り社外四割四分を何れも激減し計約四割二分の激減となり更に同輸入は十二年には七千餘瓲であつたに引替へ本年は殆どなく、輸出は五分を減じ需要は六割餘縮少された。ブリキに於ては日鐵依然優位にあり六分減十萬二千九百瓲となつたに反し社外は三割四分を急增して七萬六千七百瓲となり漸次日鐵生産に近寄つて來た。それが爲め計に於ては八分增となつたが輸入は十二年に比し十四年の社外各社計に殆ど等しく七萬七千七百瓲もあつたものが十四年に於ては僅かに三百八十七瓲と云ふ激減で如何にその生産量の增加が從來の輸入を防壓したかを實證したものと云はなければならぬ。又輸出は五分を減じたのみであるが需要量は輸入激減が祟つて二割七分を縮少した。

硅素鋼板に於ては日鐵生産が從來常に社外より多かつたのであるが日鐵は約五分を微增せるに反し社外は約六割五分を激增して計に於て二割二分の增加となつた又輸入は十二年には五千九百瓲であつたが十四年の輸入は絶無であり輸出は兩年共ない、從つて需要は八分の增加となつた。

次に仕上鋼板は十二年に比べ相當の生産の飛躍を見せてゐる。

鋼管年産は約二割を增加して居る之れは日鐵の生産なく日本鋼管の生産のみである。輸入は八分減じたが輸出は約四分を增したので需要は約七分の微增となつた。

帶鋼は從來より社外が優勢であつたが日鐵約一割八分を增加せるに反し社外生産は十二年と不變の爲計に於て三分を微增した。又輸入は約五割四分の大激減を示せるに反し輸出二割五分を增加し需要は三割六分減退となつたのである。

鍛鋼品に於ては從來社外が日鐵の約五倍を生産してゐたが十四年は日鐵六割增産の二萬六千百瓲となり社外も亦六割弱の十二萬七千餘瓲計十五萬三千二百瓲で結局約七割の增産となり輸出入はない爲同率の需要增となつた。

鑄鋼品は社外各社が斷然優勢であるが前年より增率は日鐵三割强の一萬六千瓲社外各社は約七割弱增率の二十三萬二百五十瓲となり之亦輸出なく同率の需要增加となつてゐる。

次に特殊鋼は日鐵の生産は僅かではあるが十二年より約八割を增して四千二百瓲となり社外各社は二十六割を激增して三十八萬四千九百瓲となり輸入も二倍餘りに達し輸出はないのでその需要は二十三割を增して四十三萬五千瓲と激增した。又半製品は生産及輸出入も相當減少し殊に輸出は激減したが結局需要高は三割六分の減少となつた。

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

昭和十四年に於ける鋼鐵原料需給高は左表の通りである。

（ハ）鋼鐵原料

昭和六年	一、八三八	昭和十一年	五、三一〇
昭和七年	二、三九八	昭和十二年	五、五四〇
昭和八年	三、二〇三	昭和十三年	六、〇五八
昭和九年	三、九〇三	昭和十四年	六、五七二
昭和十年	四、八〇二		

昭和六年以降本邦鋼塊産額（千瓲）

（ロ）鋼塊

昭和十四年の本邦鋼塊生産高は六百七十二萬六千六百瓲で同十三年に比し約十四萬八千九百瓲を増だから之れを十二年に比ぶれば八十四萬八千九百瓲に於て見る様に左表の通り十四年に於ける日鋼生産高は三百五萬八千三百瓲で全體の四割五分に當つてゐる。尚日本製鋼と滿洲外鋼との輸入高は十二年より見るに日鋼は十二年十九萬八千三百瓲に於て全體の五割五分に當つてゐるが、十四年に於ては日鋼は十四年十六萬八千三百瓲に於ては三割三分に當つてゐる。尚生産額を昭和十二年より見るに日鋼は十二年四十八萬六千瓲に於ては三割を減じ十四年には三割を增加し十四年には一割九分に當つてゐるが日鋼と逆に十三年には逆に十四年には一割を減じて四五割となつたに反し輸入外鋼は十二年五二割であつたものが十三年には三割を減じ十四年には一割四割を增加し十四年には一割四割を增加し輸入外鋼は十二年四十九割であつたものが十三年に於ては三割を減じ十四年には四五割となつた事は日鋼と輸入外鋼との生産高の推移を示せば

昭和十二年	一、三四六、八四一	昭和十四年	一、三四六、八四一
昭和十三年	一、四一九、八四六	昭和十五年	一、四一九、八四六

本表によると十四年に於ける鋼鐵生産は十三年に比し五十八萬八千瓲を又十二年に比べ九十一萬瓲を增加した。又輸入鋼は滿洲鋼鐵は二倍外國よりの鋼鐵輸入は二、三年に比べ半減の形である。又屑鋼の輸入高は十四年が最高であつて、十三年は十二年、十四年に比し半減してゐる。十二年の數字を一〇〇とすれば、十四年も亦同樣樣沈滯の傾向を物語つてゐる。

本邦鋼需給及屑鐵輸入高

鋼鐵生産高	日本製鋼	昭和十四年	一、三四六、八四一	指數	一〇〇
		昭和十三年	一、四一九、八四六		一〇三
		昭和十二年	一、三四六、八四一		一〇〇
	滿洲鋼鐵	昭和十四年	三、三一六、三〇〇		一、一〇一
		昭和十三年	三、四一六、〇九六		一、〇二三
		昭和十二年	三、三一六、三〇〇		一〇〇
	計	昭和十四年	四、六四三、一三五		一、一〇一
		昭和十三年	四、八三六、一四二		一、〇二三
		昭和十二年	四、六四三、一三五		一〇〇
鋼鐵輸入高	其ノ他	昭和十四年	三、五四一、九四三		一、一〇一
		昭和十三年	三、四四一、九四三		一、〇二三
		昭和十二年	三、五四一、九四三		一〇〇
	滿洲鋼鐵	昭和十四年	三、三一六、三〇〇		一、一〇一
		昭和十三年	三、四一六、〇九六		一、〇二三
		昭和十二年	三、三一六、三〇〇		一〇〇
	計	昭和十四年	六、六六〇、二四三		一、一〇一
		昭和十三年	六、七五三、一八二		一、〇二三
		昭和十二年	六、六六〇、二四三		一〇〇
屑鐵輸入高		昭和十四年	二、三五九、八七一		一、一〇一
		昭和十三年	一、四一〇、二三五		一、〇二三
		昭和十二年	二、三五九、八七一		一〇〇
參考 鐵鋼供給高		昭和十四年	一、三四六		
		昭和十三年	一、四一九		
		昭和十二年	一、三四六		

分も增加し明かに鉄鋼增産の爲めにかゝる需要が殖え事を物語つてゐる。

爲めに斯くは增加したものと思はる尙鋼鐵石の供給は十二年の數字を一〇〇とすれば、昭和十四年は四割三分も增加し明かに鉄鋼增産の爲めにかゝる需要が殖え事を物語つてゐる。

三、鐵鋼價格

戰時經濟による價格は自由主義經濟時代に於けるが如く常該物品の需給の態樣如何によつて決定さるゝのではなく一に强權の價格抑止に基く命令によつて決定される。それが軍需品の素材たる鐵に於ては殊更にその價格の自由奔放なる騰貴は止揚されねばならない。そこで政府は既に十三年以來鐵價については統制價格を堅持して來たが同十二年以降十四年に至る丸鋼鋼板の建値現實輸入の各値段を示せば左表の通りである。

丸　鋼　25粍ベーヌ物（圓）

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
昭和十二年	建値	160	160	180	195	195	195	195	195	195	195	195	195	188
	卸賣	204	184	200	238	209	204	181	335	232	220	219	224	213
	輸入	203	200	236	222	222	208	210	207	207	206	208	196	210
昭和十三年	建値	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	175	184
	卸賣	223	217	208	210	223	236	201	195	195	196	199	199	209
	輸入	183	161	159	186	155	155	155	155	155	153	153	153	161
昭和十四年	建値	175	175	175	175	175	175	186	186	186	186	186	186	181
	卸賣	199	199	189	189	189	189	189	186	186	186	186	186	189
	輸入	153	182	182	182	182	182	182	182	256				

鋼　　板　(3.2粍×4×8)(圓)

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
昭和十二年	建値	200	190	190	210	230	230	230	230	230	235	235	235	229
	卸賣	252	233	275	343	267	243	285	298	289	271	303	310	281
	輸入	201	234	262	247	256	255	251	244	236	236	234	221	240
昭和十三年	建値	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	245	227
	卸賣	310	300	300	300	357	354	243	237	237	238	241	241	280
	輸入	209	183	200	181	171	171	171	171	171	177	177	177	180
昭和十四年	建値	245	245	245	245	245	245	255	255	255	255	255	255	250
	卸賣	241	241	262	262	262	262	262	255	255	255	255	255	254
	輸入	177	174	174	174	174	174	174	174	270				

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0304

四、鐵鋼統制機構の改組擴充

時局下に於ける我が國鐵鋼の生産、配給及消費の各部門内に亘る一貫的統制體の整備なくしては、その需給の合理的遂行は不可能の實情にあり政府は民間と協力して鐵鋼統制機關の整備に萬全を期して來たが十四年は一層その中樞的機構に一貫性と綜合性を持たしめる事が焦眉の急となつたので以下略記する如く日本鋼材聯合會の改組を斷行する方針の下に同年末その準備を整へ十五年匆々未曾有の有機的統制を敢行した。その統制機構を略述するに當り十四年より十五年上期に亘る改組擴充を記する事とした。

昭和十二年十月日本鋼材販賣聯合會より今回改組擴充されたる日本鐵鋼聯合會に至る變遷を簡單に示せば昭和十二年十月品種別共販組合の設立と共にこれが統轄機關として「日本鋼材販賣聯合會」が設立されたが翌十三年三月鋼塊組合の設立加入と共に、從來販賣中心の統制機關であつたものが生産統制の機能をも併有する機關へと進展し、一部規約の改正と共に名稱も「日本鋼材聯合會」と改稱された。更に十四年に入つて傘下の各品種別共販組合を解體統合せしめて日本鋼材販賣會社、第二鋼材販賣會社、日本鋼管販賣會社の三販賣會社に發展改組せしめ、直接の販賣統制は新設の此等各販賣會社に擔當させ、聯合會はこれを監督指導すると共に專ら生産統制に力を注く事になつたのである。併し乍らかくして設立された鋼材聯合會の機構も生産統制の基礎をなす製鐵原料部門の統制が本格化してゐなかつたのと、鐵鋼全般に亘る縱横の連絡、即ち綜合的一元的統制の不完全及び配給統制上の整備が過渡期であつたこと等の缺點を有してゐた。玆に於て更に鐵鋼統制の擴大强化を目指して十五年三月廿四日同聯合會の機構を整備して鐵鋼の綜合的統制機關としての實をあげられ度、との商工次官通牒が發せられその根本方針を闡明するに至つたのである。

今この方針を要約すれば

(1) 製鐵原料の確保と配給の適正化を圖る。

(2) 製品統制の範圍を擴張し綜合的鐵鋼統制機關たらしむる。

(3) 業務運用の迅速と執行力の强化のため常務委員會の權限を擴張し特別なる事項を除き常務委員會の決議により運用せしめる。

(4) 聯合會の業務中生産割當に關する事務をなさしむる

(5) 價格の安定と需給の調整を計ること

(6) 生産割當をして、その運用を誤らざる樣常時製造業者の實情を視察する制度を設くる事。

以上の如き次官通牒に應ずるため三月廿六日鋼材聯合會では鐵鋼會館に於て臨時委員會を開催。審議の結果日本鋼材聯合會は改組擴充され鐵鋼統制の新態勢に即應すべき日本鐵鋼聯合會の設立をみたのである。

扨日本鐵鋼聯合會の從來の統制機關と異る點は先づ生産統制機構については之まで不完全であつた生産統制を强化し製鋼原料の確保並に配給の適正を圖るため製鋼主要原料たる屑鐵、合金鐵、銑鐵に關する各統制機關たる日本鐵屑統制會社、屑鐵共同販賣會社、日本フェロアロイ協議會、日滿鐵鋼販賣會社、日本銑鐵協議會を會員として參加せしめると共に原料部會を設けて、原料配給統制の衝に當らしめた點及びこれを基礎とする製品の統制もその範圍を擴大し從來の普通鋼々塊、普通鋼壓延鋼材の外に特殊鋼、鑄鋼、鍛鋼をも包含された。從つて之に關係ある特殊鋼協議會、日本鑄鋼協議會、鍛鋼協議會を傘下に入れるに至つたのであり、更に販賣會社と密接なる連絡をとるため、日本鋼材販賣、第二鋼材販賣、日本鋼管販賣の三販賣會社を會員としてこれを統合しかくして、從來見られなかつた鐵鋼に關する綜合的統制機關となるに至つたのである。

以上の如く、改組擴充された統制機構の運用を完全ならしめるために、その人的組織をも强化された。即

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0305

ち從來の委員長制を會長、副會長制に改め常務委員會の權限を擴充强化して會の中樞機關となし、更に新たに會長を補佐するために常任幹事制を設け、又事務局を擴充して統制强化の實を擧げんとした事である。以上の如く改組された所以は已に明かである通り、從來の鐵鋼統制機關で果し得なかつた鐵鋼の生產、配給、消費の全般に亘つて計畫の萬全を期するため及びその機構に法的根據を付與し、又昭和十三年七月以來實施中の鐵鋼切符制度の改善をはかるため、從來の配給消費のみを中心とした「鐵鋼配給統制規則」を廢止し、新しく制定された「鐵鋼需給統制規則」に適合する樣整備するにあつたのである。

然らば今回の新規則により擴大强化さるべき分野はどういふ事になつたかと言ふに大體次の如くである。

(1) 統制適用品の範圍擴大

從來統制適用品目であつた銑鐵、鑄鐵管、壓延鋼材の外に鋼塊、壓延鋼片、シートバー、テインバースケルプを包含すること。

(2) 生產部門の統制に對する法的根據を附與。

生產統制に對する政府の代行機關と化した當聯合會による生產割當の立案は常務委員及び幹事によつて行はれ商工大臣の承認を受け、その生產實行に當つては、一定の過不足の許容率を認めること。

從つて當局は自由に生產統制をなし得、重點主義による生產割當も可能になつた事。

(3) メーカーの製品は配給統制機關即ち販賣統制機關が完全に買取る樣になつた事。

例へば軍機の秘密確保に必要な場合等の外配給統制機關として指定された日滿鐵鋼販賣、日本鋼材販賣、第二鋼材販賣、日本鋼管販賣の各社以外の者は製鐵業者より、その鐵鋼を買受る事を得ない。

(4) メーカーの自家用消費を嚴重に取締り又は制限したこと。

(5) 從來の切符制の不備が補强されたこと。

(イ) 配給統制を一段と强化し從來切符を必要としなかつた官廳及び公共團體の需要も今後は切符を必要とする。

(ロ) 從來切符發行權をもつてゐた公共團體の分は凡て地方長官がこれを發行する事となつた。

(ハ) 正副二通からなつてゐた切符を一通とした。

(ニ) 請負業者が註文者から切符を受理した時從來は、更にその統制團體から切符の交付を受けねばならなかつたが、今後はその必要なく單にその證印の押捺を受けるだけでよいことゝなつた。

(ホ) 從來切符のフォームが一定せざるため種々の不都合を生じたので之を一定にした。

(ヘ) 切符の發行報告を聯合會に提示せしめ以て切符發行の嚴密性を保持した。

(6) 統制規定を擴大したこと。

(7) 報告規定を充實したこと。

尙左に之を圖にて示せば、

(一) 生產統制機關たる日本鐵鋼聯合會は、その立案せる生產割當を商工省に提示して（A_1）その承認を求め（A_2）承認を得たる時は、これをメーカーに割當てる（A_3）。メーカーはその製品を凡て配給統制機關たる日本鋼材販賣、第二鋼材販賣、日滿鐵鋼販賣、日本鋼管販賣の四社の中の何れかに販賣し（A_4）、配給統制機關は、これを販賣業者を通じて（A_5）請負人乃至實需家に販賣する（A）、

(二) 販賣業者は、配給統制機關に販賣報告をなし（A_7）、また配給統制機關は配給報告を（A_8）メーカーは生

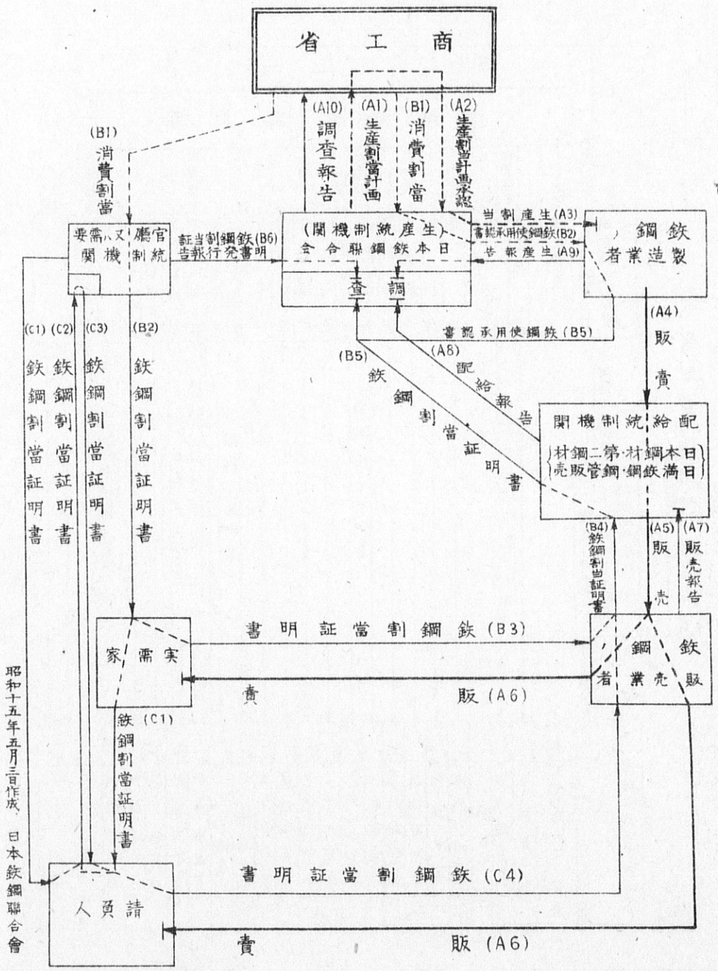
東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

産報告を（A_9）何れも聯合會に提出し、最後に聯合會は此等諸報告書の概要を商工大臣に報告することになつてゐる（A_{10}）

（三）商工省は消費割當を聯合會に指示し（B_1）聯合會は、これに基いて、鐵鋼使用承認書を發行してこれをメーカーに交付する。（B_2）メーカーは、この鐵鋼使用承認書に定むる鐵鋼の種類別數量を超え、その製造したる鐵鋼を使用することは出來ない。一方商工省の消費割當は、官廳又は需要統制機關にも指示され（B_1）官廳又は需要統制機關はこの消費割當に基いて鐵鋼切符を發行してこれを實需家に交付する（B_2）。實需家はこの切符を販賣業者に提出しこれと引換に鐵鋼を購入する（B_3）。販賣業者は、この切符を配給統制機關に提出し（B_4）、配給統制機關はこの切符を聯合會に提出する（B_5）、また官廳若くば需要統制機關はその切符の發行報告を聯合會に提出する（B_6）。

（四）請負人が「鐵鋼を使用する作業又は工事を請負ひたる」時は、先づその註文者（實需家又は官廳）から切符の交付を受け、（C_1）これを需要統制機關に提示し（C_2）これにその證印の押捺をうけ（C_3）、これを販賣業者に交付し（C_4）それと引換に鐵鋼を購入する。

鉄鋼需給統制規則圖解

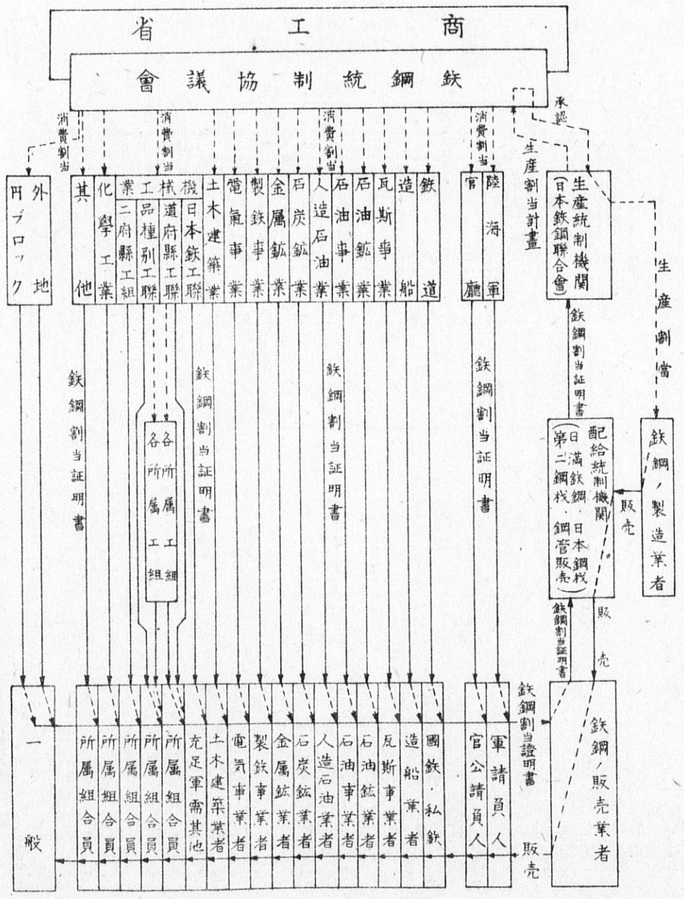


昭和十五年五月三日作成　日本鉄鋼聯合會

0000 0306

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

鉄鋼需給統制機構略圖



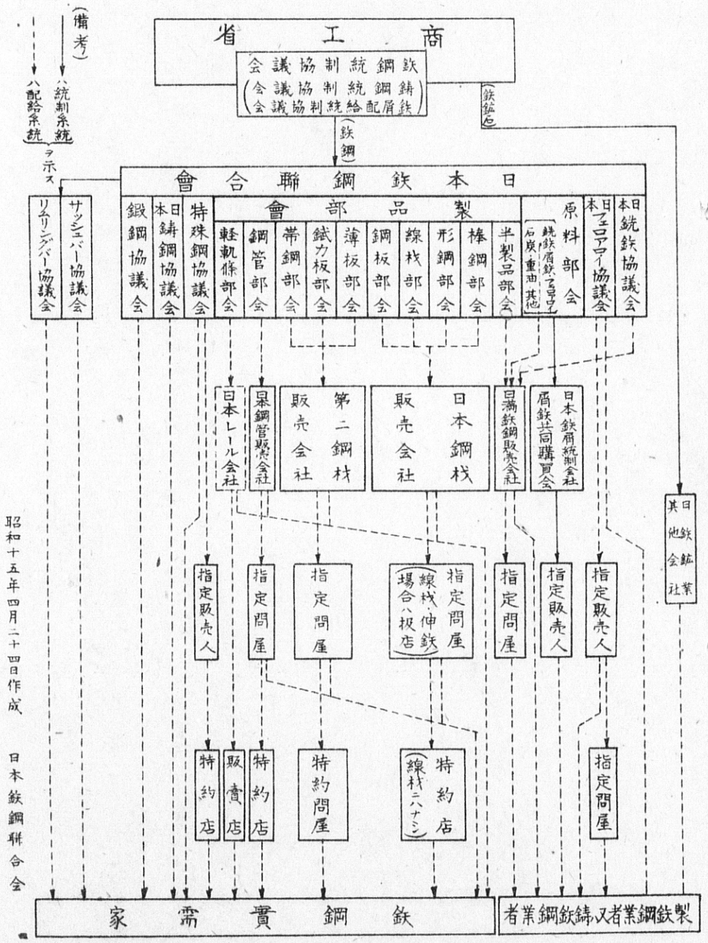
昭和十五、四、十一 日本鉄鋼聯合会

0000 0307

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573

0000 0308

鉄鋼配給統制系統略圖



昭和十五年四月二十四日作成

日本鉄鋼聯合会

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507686573